

## 令和6年度 奈良市立朱雀こども園 研究実践概要

園長名 前田 美穂  
全園児数 200 名

1. 研究主題 いろいろな人とのかかわりの中で、自分の思いを出せる子を育てる  
～ 安心して過ごす中で、自己発揮できる子どもを目指して ～

2. 研究年度 初年度

### 3. 研究主題設定理由

数年にわたり、コロナ禍で人とのかかわりが制限されてきた。本園でも行事は縮小され、中止になることも多かった。また、今まで行ってきた異年齢交流として学年や棟をまたいだかかわりもほとんど行われなくなっていた。昨年度から少しずつ学年同士の交流を再開し始め、異年齢で一緒に遊んだり行事を行ったりする中で、親しみを感じたり、憧れたりする子どもの姿が見られるようになってきた。

今年度は異年齢での交流をさらに進めていくとともに、地域力を活かし、自然・様々な人とのかかわりを通して「人への信頼感」「生きる力の基礎」を育みたいと考えた。またその土台として、安心して過ごせる環境の中で自己を受け入れてもらい、自己表現するということを改めて大切にして、取り組みを進めることとした。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

- <乳児>・安心できる環境の中、身近な人と気持ちを通じ合わせ、一人一人が自分の思いを受け止めてもらい、自信をもって行動できるような保育を目指す。
- <幼児>・様々な行事や活動、遊びを通して、人とのかかわりの中で子どもが自分の思いを表現したり、自己発揮したりするような環境構成や援助、カリキュラムの在り方を探る。

#### ②研究の重点

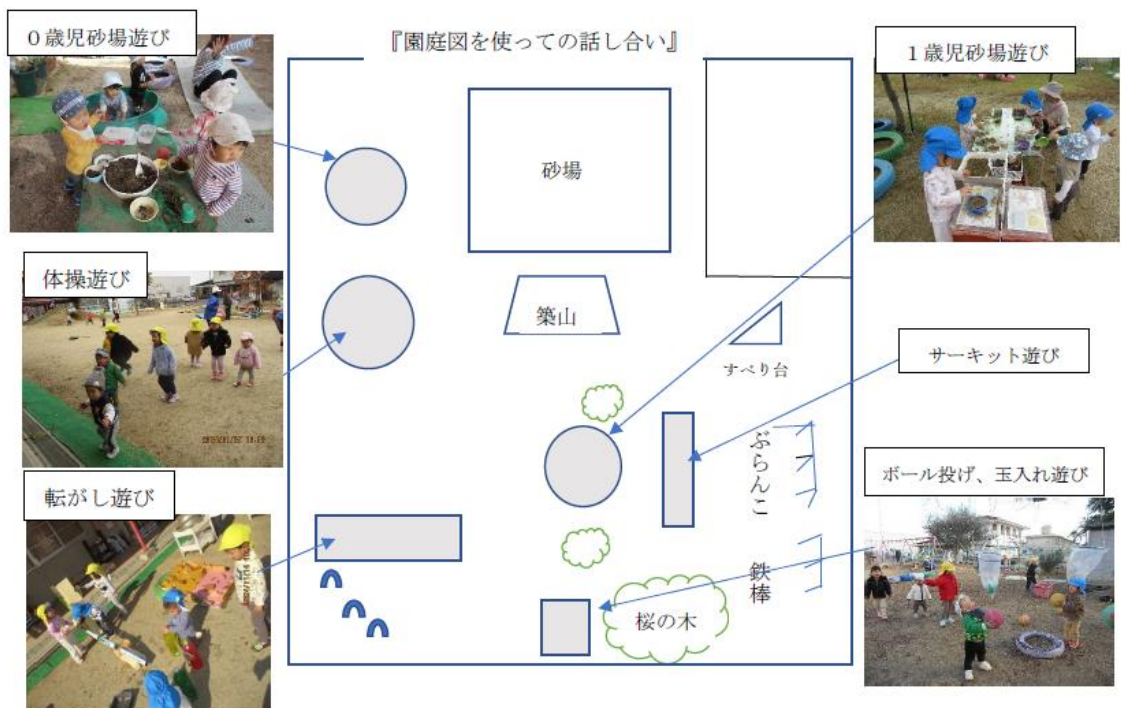
- ・保育者とのかかわりから得られる安心感を土台として、保育の在り方を探る。
- ・遊びや行事の中で異年齢と関わる中で、思いを出し合えるような活動内容を探る。
- ・計画や反省について話し合いを重ねて各年齢の姿を共有し、子ども理解や保育内容の充実に努める。

#### ③活動の方法

##### <乳児棟>

- ・毎月1回乳児会議の中で、どのような遊びを展開していくのかを、学年ごとに出し合った。遊びの内容を出し合うだけでなく、①子ども達の発達に沿っているか ②遊びの目的やねらいは何か ③環境設定(園庭の使い方)などを明確に話し合うようにした。
- ・各年齢の保育者とかかわったり、大人を介して異年齢が触れ合ったりできるようにした。

本年度の遊びの計画				
	4月～7月	8月～9月	10月～12月	1月～3月
0歳児	<テラス・屋上> ◎日光や風などの心地良さを感じる	<感触遊び> 水、寒天、くずきり、高野豆腐 ◎つまむ、ちぎるなど手指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ	<砂遊び、自然物に触れる> ◎砂の感触を味わう ◎落ち葉やドングリなどの自然物に触れて遊ぶ	<砂遊び、サーキット、体操> ◎またぐ、くぐる、しゃがむ、上る、下りるなど全身を使った動きをしてみようとする
	<固定道具、探索遊び> ◎築山や道具で体を動かして遊ぶ	<水遊び、感触遊び> 米ぬか、水、マロニー ◎水や泥など色々な感触を味わって遊ぶ	<砂遊び、運動遊び> ◎自然物に触れながら見立てて遊ぶ ◎上り下りやぶら下がり等全身を使って遊ぶ	<砂遊び、運動遊び> ◎保育者や友達と一緒にかけっこや追いかけっこなど体を動かして遊ぶ
2歳児	<砂遊び、泥水遊び> ◎砂場など自分が興味をもった場所で十分に遊ぶ	<水遊び、感触遊び> 寒天、マロニー、石鹸、水、花 ◎色々な素材に触れ、用具を使って自分なりに見立て遊びを楽しむ	<自然物を使って遊ぶ> ままごと、転がし遊び、もみ殻 ◎自分のしたい遊びを見つけ友達と一緒に遊ぶ。 ◎友達や保育者と見立てやつもり遊びを楽しむ	<簡単なルールのある遊び> しっぽとり、かくれんぼ だるまさんが転んだ ◎友達や保育者と一緒にルールのある遊びを楽しむ ◎見たこと、感じたことを簡単な言葉にして友達とやり取りする



【具体的な取り組み】 2歳児

0, 1, 2歳児の興味や発達に応じた砂場の環境をつくり、遊べるようにしてきた。いつでも体操ができるように園庭にCDデッキを置き体操コーナーを作り、子ども達の好きな曲をかけるようにしている。2歳児が体操を始めると0歳児や1歳児がやってきて一緒に楽しんでいる。2歳児が踊る様子を見てポーズを真似たり音楽に合わせて体を揺らしたり、動かしたりして楽しむ姿が増えてきている。2歳児なりに自分より小さい子にぶつからないように動いたり、手を繋いで一緒に踊ったりするなどのかわりが見られるようになってきた。

【評価・反省】

月1回の会議で、遊びの場や内容について各学年出し合い話し合った。0, 1, 2歳児の

発達や興味に応じた砂場遊びが充実するよう、年齢別の砂場をつくるなど環境を整え遊べるようにしてきた。季節や子どもの発達や興味に合わせた遊びを継続することができた。また、遊びの場所を固定したことで、子どもたち自身がしたい遊びを選んで遊べるようになってきた。また、それぞれの遊びの場にいる保育者が、クラスの年齢に関係なく子ども達を見守ることで、子ども理解に繋がっていった。

<幼児棟>

- ・毎月の幼児会議の中で、3，4，5歳児のペアのクラスで活動したり、全体で遊んだりしてかかわりがもてるような環境構成を探っていった。日頃から担任同士で話す機会を意識的にもち、互いのクラスの幼児の様子を共有していくよう努めた。
- ・月に1度以上はかかわることができる機会をもつことを目標として、カリキュラムを作成した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園内(異年齢)	園内探検	こいのぼり集会	プール開き	七夕集会	夏の遊び大会	お月見集会	運動会(こい)	収穫祭	乳・幼交流		遊び場の共有	
						運動会交流		お話遊び交流	散歩			
園外(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイコン抜き・タケノコ掘り</li> <li>・サツマイモ植え・奈良高校交流</li> <li>・平城東中保育体験・理科実験教室</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・平城東中音楽会</li> <li>・奈良高校交流・サツマイモ掘り</li> <li>・平城東中体育祭・理科実験教室</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・朱雀小展覧会</li> <li>・万年青年クラブ交流</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話の会(読み聞かせボランティア)・環境ボランティア(環境整備)</li> </ul>											
ねらい	○一緒に活動したり遊んだりすることを通して、互いの存在を知り、親しみをもつ。				○触れ合ったりかかわったりすることを通して、優しく接したり、憧れたりする。				○遊びや生活の中で、異年齢の友達に、自分からかかわろうとする。			
保育者の意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に行事を通して互いを知れる、親しみをもてるような活動を取り入れる。</li> <li>・触れ合い遊びや体操などで体を動かしながら、かかわって楽しめるようにする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの活動の様子を見合ったり、誘って一緒に活動したりし、流動的に交流の機会を取り入れていく。</li> <li>・乳児から幼児への進級を念頭に、交流を始めていく。子ども同士の交流に加え、幼児棟という場に親しみを感じられるようにする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭のスペースを年齢や遊びの種類によってゆるやかに使い分けながら、遊び同士がつながり合えるような場の設定を行う。</li> </ul>			

□:学年間の交流    ■:幼児全体の行事    □:地域との行事

【具体的な取り組み】 11月『収穫祭』 \_\_\_\_\_人とのかかわり \_\_\_\_\_環境構成

幼児クラス全体でサツマイモ掘りや焼きいもの準備を行い、出来上がる過程も含めて楽しんでいる『収穫祭』の中で、異年齢でのかかわりや遊びを取り入れることができないかと考え、昨年度に行事の見直しを行った。今年度は反省を踏まえ、様々な秋の自然物を利用して遊ぶコーナーをつくったり、5歳児が神輿を担いで3，4歳児と一緒に音を鳴らしたりしてより充実できる活動を取り入れた。

各学年の担任が集まり、各年齢が楽しめる内容や、今の遊びの様子を取り入れる方法について繰り返し話し合った。当日は2歳児も遊びに来るため、分かりやすいコーナーの配置や標示、一目で遊び方が分かる遊具の置き方に配慮した。各コーナーにテントを設置してそれ

それぞれの遊び場を分かりやすく示し、内容もイラストと文字で大きく標示した。また、園庭のトラック中央は開けておき、その周りにコーナーを展開することで移動のしやすさや、保育者が子どもを見渡しやすい場の設定を行った。

コーナーの一つ『いもほりたいかい』では、砂場を畑に見立ててウネのように盛り、その中に3歳児が制作したサツマイモを埋めて、それを掘って楽しむ、という遊びを取り入れた。

4, 5歳児も集まってきて、「先生、掘れたで」「うわ、金色のイモや！」と出てくるサツマイモに嬉しそうな様子であった。また、2歳児も自然と遊びに参加し始め、その姿に「こっち(掘って)いいよ」「ここ、おいもあるよ」などと思いやりをもって優しくかかわる姿も見られた。制作した紫色のサツマイモに加えて、『当たり』として金色や本物のサツマイモを混ぜて準備したことで、嬉しさや楽しさを引き出すことが出来たと思う。

『落ち葉でプール』では、自分たちで落ち葉を集めて運んできたり、片付けでシートを自分たちで掛けたりするような姿が出てきた。『まつぼっくり釣り』では、タライを力を合わせて運んだり、入ろうとする3歳児を優しく受け入れたりするような姿があった。

『収穫祭』の後も砂場にサツマイモが入ったカゴを置いておくと、「おいも埋めるね」と言いながら砂場に自分たちでサツマイモを埋めて掘ることを、継続して楽しんでいた。

#### 【評価・反省】

3歳児が遊びの内容が十分に理解できて、それでいて5歳児も楽しめる内容の選定や環境の構成は、試行錯誤をしながら進めた。それぞれの遊び場は、その後の好きな遊びの時間にも継続して楽しむ姿があった。活動内容が子ども達に合っていたこと、物的環境を身近に置き続けたことで、自ら進んで遊ぼうとする姿を引き出すことができたと感じる。このような場の構成について、他の時期にも取り組みを続ける必要があると感じた。

### 5. 研究の成果

乳児棟では取り組みを続ける中で、保育者を介して異年齢でかかわって遊ぶ姿が増えてきている。子ども達同士が互いの存在を知ること、かかわり方に良い変化が見られている。2歳児なりに歳の小さい友達に優しくかかわる姿も出てきた。

幼児棟では、異年齢でかかわり合う機会を設ける中で互いの存在に親しみを感じられており、その経験が普段の遊びの中でのかかわり合いに繋がっていったと感じる。行事を新設するのではなく、既存の行事を異年齢の取り組みに切り替えていくことで、負担なくかかわりを取り入れていくことができた。また、カリキュラムを作成し、保育者間でねらいを共有したことで、園全体で前向きに取り組んでいくことに繋がった。

### 6. 今後の課題

乳児棟では話し合いを重ね、年齢ごとに環境を整えることはできたが、遊びを通して異年齢同士のかかわりを深めることは十分に出来なかった。一人一人が興味をもった場で遊べるよう、保育者全体で継続して様子を共有することの大切さを感じた。次年度も引き続き、子ども同士のかかわりが自然と生まれるような環境づくりについて、試行錯誤を続けていく必要がある。

幼児棟では、一・二学期の交流は主に行事の中であり、遊びの中での交流が少なかった。

互いに存在や顔、名前などを知っていく中で、三学期頃からゆるやかに交流ができてきた。

取り組みは年度をまたいで続け、年度当初から遊びの環境の共有を更に進めていけるようにしたい。また、異年齢のかかわりを踏まえた遊び案や園庭図、カリキュラムづくりなどについても進めていくようにしたい。